

第5次大東市総合計画及び第3期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂方針

令和7年3月27日

大東市

令和3年に第5次大東市総合計画及び第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定してから約4年が経過した。

この間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大というかつてない経験を経て、ポストコロナ時代を迎えた今もなお、デジタルの急速な普及やライフスタイルの変化、価値観の多様化など、まちを取り巻く環境は変動し続けている。また、本市を含め全国において少子高齢化・人口減少が急激に進んでおり、この傾向は今後も続く予測されている。

これら変化が激しい時代にあって、本市が持続可能なまちであるためには、様々な変化に対応できる柔軟なまちづくりを進めることが必要である。

一方で、社会がどのように変化したとしても、一人ひとりが幸せを実感できるまちにしていくことは、まちづくりの揺らぐことのない最大目標である。

以上を踏まえ、まちづくりの根幹となる目標は堅持しながらも、目標達成に向けては、社会の変化に応じて常に更新し続けることができる柔軟性も兼ね備えた総合計画及び総合戦略とする。

具体的な改訂にあたっては、次の点に留意することとする。

【総合計画】

(1) 計画の位置づけ

策定時からの社会情勢の変化や本市を取り巻く環境の変化などを踏まえた精査を行い「第5次大東市総合計画（後期計画）」として位置付ける。

(2) まちづくりの理念とめざす将来像

現行の計画では、「あふれる笑顔 幸せのまち大東づくり」をまちづくりの理念とし、そのようなまちづくりを進めた先の将来の姿として「安心・信頼がさらに強固な土台として築かれており、その上に希望・喜びが実感できるまち」を掲げている。引き続き、理念及び将来のまちの姿の“考え方”は根幹に据えつつ、それぞれに込められた要素や関係性を整理し、時代に即して改訂することとする。

(3) 人口とまちづくりの考え方

現行の計画では、子育て世代を主なターゲットとして、人口流入と定住の促進及び出産の希望の実現をめざしてきたが、依然として社会減、自然減の傾向が続いている。

計画の中間年度を迎えた今、全国的に人口減少・少子高齢化が今後も確実に進むとされる事実を受け止めた上で、市の維持・発展に向けた人口の考え方やターゲットを見直すこととする。

(4) まちづくりの展開方針

現行計画において「政策の視点」に掲げている「まちの土台強化」「大東ならではの付加価値の創出」、それを支える「行政基盤の強化」を軸として、それぞれの政策の方向性を示すものとする。

(5) まちづくりに取り入れる手法

ライフスタイルや価値観の多様化に伴って、市民ニーズも多様化している。人口減少社会において、これらに対応する人材や財源を確保し、より効率的・効果的にまちづくりを進めるための手法等についての考え方を示すものとする。

【総合戦略】

(1) 位置づけ

令和7年度末を持って現行の計画期間が満了することから、新たに「第3期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として策定するものとする。

(2) 基本的な考え方

総合計画の理念と整合性を持たせるとともに、国や大阪府における地方創生をめぐる動向を踏まえながら策定するものとする。

(3) 施策体系と重点分野

社会情勢の変化やこれまでの成果・課題を踏まえ、総合計画の改訂において整理した「まちづくりの展開方針」を基に、再編を行うものとする。

【共通事項】

(1) 基本目標や KPI については、できるだけ定量的かつ取組と連動した値を設定することとする。また、計画に記載の取組を実行することで達成可能な現実的な目標値を掲げることとする。

(2) 定期的に自己評価及び外部有識者等による評価検証を行うとともに、その結果を公表するものとする。また、計画期間の途中であっても、効果が著しく低いと認められる場合や、総合計画・総合戦略の内容に影響が及ぶような社会情勢の変化や本市を取り巻く環境の変化などがあつた場合は、必要に応じて、総合計画・総合戦略の見直しを行うこととする。

(3) 行政をはじめ、多様な主体の意見を聴きながら改訂を進めることとする。